

平成28年度 学校評価の分析及び考察

佐伯市立佐伯城南中学校
教務部 学校評価担当

学校評価アンケートの概要

- ◎調査項目は、全14項目。すべて、マークシート形式。各項目とも「十分にそう思う」「まあそう思う」「あまり思わない」「不十分」の4段階評価で設定した。
- ◎全校生徒においては、全校一斉に任意の時間帯を設け、学級担任の指示にて各教室で記入した。また、保護者においては、学期末のPTAの学級懇談会の場で、記入してもらった。当日、懇談会に不参加の家庭については、生徒を通じて家庭からの封書返信にて回収したものである。職員については、無記名式で回収を行った。

内訳

(回収率)

平成28年 7月 *1学期末	生徒	289/302人	96%
	保護者	268/302人	89%
平成28年 12月 *2学期末	生徒	289/302人	96%
	保護者	262/302人	87%
全体集計	生徒	578/604人	96%
	保護者	530/604人	88%

全体回収率・・・92%

分析及び考察にあたり

- ◎本校が今年度4月に設定した全体構想（佐伯市立佐伯城南中学校グラウンドデザイン）に提示した『目指す学校像』に『指導の重点』を関連させて分析を行った。1学期と2学期の経期変化については、別紙を参考資料としたい。

＜1＞考える力や表現する力の育成

指導の重点…（主体的な学習の充実による確かな学力の定着と活用力の向上）

- * 授業はわかりやすいか。
- * 1時間以上の家庭学習をしているか。
- * 授業中における班学習などの学び合い学習があるか。

□分析と考察□

1学期末比、全ての項目で上昇傾向にあると言える。特に、「研究テーマに沿い、授業をわかりやすく教える努力をしている」項目に置いては大きな伸びがみられ、「目指す学習スタイルの意識化」「言語活動の充実」「伸びを実感する場の工夫」を心がけ、各教師が十分に意識しながら授業改善を日常より実践していることがわかる。生徒・保護者も同様に1学期末比、上昇傾向であり、各教師が指導技術力向上を目指した授業づくりが展開されつつあることがわかる。今後の課題としては、次の内容について具体的な改善を図っていく必要がある。

- 「講義型」「活動型」「課題解決型」の3つの型を日常の授業づくりの中ですべての教師が実践する必要がある。そのためにも、校内研究推進体制を校内教科部会を中心に更に充実させ、「互見授業」による授業評価の実施や、授業中における生徒の学習活動の一部に特化した全体研修、管理職による指導の日常化を計画的に組み込みつつ推進させる必要がある。
- 現在、各教師が実践している授業改善について、生徒側からの授業評価を真摯に受け止め、明確な方向性を示す必要がある。1年生では、1月の佐伯市評価規準診断テスト、2年生は、4月の大分県学力定着状況テスト、3年生では、4月の全国学習状況調査の実施に伴い、各教師が数値目標などを明確にさせようとして、日常の授業改善をさらに推進させる必要がある。

＜2＞自尊感情や感謝する心の育成

指導の重点…(豊かな人間性・創造性を伸長する徳性・感性を育む教育活動の推進)

- * 楽しく学校に通っているか。
- * 場に応じたあいさつができているか。
- * 清掃や作業にしっかりと取り組んでいるか。
- * 思いやりの心をもって人に接しているか。

□分析と考察□

上記の項目については、生徒と教職員の評価は上昇傾向だが、保護者の視点からみれば伸び悩み、両者における差が見受けられる。学校における集団生活の中では、場の流れや雰囲気に応じてできているが、家庭では、学校の生活リズムとは違い、個人で時間をマネジメントしなくてはならないので、生徒の動きに差がでるのかもしれない。学校という集団生活を過ごす中で、時間を意識した行動ができるということは大きな成長の要因となる。

各学年で共通理解した道徳教育の実践、学級活動において、QU検査を基にした、人間関係づくりなどの取組も充実しつつあるといえる。さらに充実を図るためにも以下の視点からの課題解決が必要である。

- 今年度は、校内研修や校内道徳教育部会で、各学年における道徳的实践の場を明確に持ち、その場と関連した道徳の授業づくりを実践していく検証の場が不足した。今年度もあとわずかであるが、道徳的实践の場と関連付けた価値ある道徳の授業実践を展開していき生徒にとって望ましい進級・進学を後押ししたい。
- 特に「子どもは思いやりの心をもっているか」の項目については、生徒・教師と保護者間において多少の乖離を感じる。学校教育活動においては、定期的に教育相談期間(担任と生徒の二者面談)の設定、機を逃さないチャンス相談を日頃から行い、教育相談活動の充実および温かい人間関係づくりに取り組んできた。今を生きる思春期真っ只中の生徒集団であるので、一部の生徒の心ない言動や、自分本位の行動が見られたが、社会生活を営む上で「自分を大切にすると同じように他人を大切にすること」の意義や必要性を生徒に理解させ、実践できるように、教師も日頃から話しやすい人間関係づくりに努めてきた。「生徒集団の思いやりある心の育成」の観点は上昇傾向であるが、学校の様子や生徒集団の変容の様子が、家庭にうまく伝えきれていない現状がある。学校という公の場では、マナースキルはあるものの、家庭では、両親・兄弟姉妹・祖父母に対して素の自分になれるため自ずとわがままや自分勝手な言動があらわれるのも無理はないと考える。
- 来年度の課題として、今年度以上に、生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、命を大切に教育や人権教育にも一層取り組みたい。さらに、本校は「学びに向かう学校づくり」の中核校として指定を受けています。今後も取組の充実と成果のまとめを行っていきたい。

＜3＞体力と意志力の育成

指導の重点…(健康教育・体力づくりの推進及び部活動)

- * 学校行事に積極的に取り組んでいるか。
- * 体力づくりのために十分、運動に取り組んでいるか。
- * 学校は部活動に積極的に取り組んでいるか。

□分析と考察□

今年度は、非行防止学習として全学年で「ネットによる誹謗中傷・いじめ」「薬物乱用防止」、各学年の発達段階に応じて保健の授業を通して「性の逸脱行動防止」「食育学習」「人権学習」について実施した。本校の特徴は、積極的に外部講師を招聘した全校生徒・保護者・教職員を対象にした学習を行っている。学習者と外部講師の双方向において高い評価を得ており効果的な取り組みであると考えている。

学校の、「指導の重点」として掲げている『部活動の推進』について、数値は、1学期末比、生徒・教職員の数値は上昇傾向だが、保護者の評価は低くなっている。1学期は中体連の大会が盛んで、2学期は部活動の時間帯も短くなり部活動開催時間も少なくなるのも否めない。その点から、保護者からすれば物

足りなさを感じているのものと考える。しかしながら、中体連の結果から、前年度を上回る結果を出す部活動もあり、今後が期待される場所である。顧問の指導の下、活気ある練習風景が日常的に見受けられるようになってきている。努力の積み重ねによる結果の向上が期待される場所である。しかし、部活動をドロップアウト（休みがち・やめてしまう）する生徒が少数であるが見受けられる。問題行動や非行が背景にあるのではなく、「期限内に各教科の課題の提出ができなくて」「長期休業中の課題ができていなくて」を主な理由に部活動を休みがちな生徒がいることは残念である。こまめに学級担任や部活動顧問が連絡をしているがこれといった効果は感じられない。学校としても、一層魅力のある部活動の在り方を考え、教師間の連絡を密にするとともに保護者の協力を得て指導を進めていきたい。

＜4＞学校の目標具現化への方途

指導の重点…積極的な生徒指導の推進・開かれた学校づくり・安全安心な学校と安全教育の推進

- * 学校のきまりをよく守っているか。
- * 担任は子どものことをよく理解しているか。
- * ホームページや学校の便りを通じて学校の様子がわかるか。
- * 子どもの健康や食生活について気を配っているか。

□分析と考察□

生徒は、学校生活について、概ね良好な評価を示している。特に「学校生活の楽しさ」「熱心な教師の多さ」「学校の満足度」に係る観点は高い評価値を得ている。このことは、生徒の教育的ニーズに応じた良好な学校運営が図られていると考えてもよいのではなかろうか。決して管理的な高圧的な指導ではない、生徒理解の視点に立った教師集団の姿勢・態度が生徒から高い評価を得ている。この現状に甘んずることなく、教師集団の更なる実践的指導力の向上を図りながら、生徒から信頼される学校づくりを推進していく必要がある。

生徒・教職員・保護者ともに80%以上が「学校の様子が家庭に伝わっている」という高い評価を得ている。しかし、生徒が配布物を保護者に渡していないという現状も少なからずある。配布物が確実に保護者に渡るように、教師は生徒に指導するとともに、家庭でも保護者が生徒に配布物はないかと確認することも必要である。今後も、ホームページを充実させ、学校生活の様子を発信していきたい。本校では、学校からの連絡やお知らせについて、一斉メールシステムを採用しているが、全家庭が登録できる環境ではないため、担任が直接電話連絡をしている場所である。修学旅行・部活動公式戦の結果や経過速報については、数多くのアクセス数が確認できた。保護者や地域の関心が非常に高いことが伺えた。

保健室利用の生徒の様子から「朝食を食べてきていない生徒」「夜更しが原因で体調不調を訴える生徒」が少なからず見受けられる。生活のリズムを整えることは、充実した学校生活を過ごすための基本になる。今後も、保健日よりや学年集会・全校集会の中で、「こころとからだの大切さ」の意識の高揚に努めたい。

＜学校評価全体的な分析から見える今後の方策の助として＞

指導の重点…教職員の意識改革と資質能力の向上

◎生徒の自尊感情につながる調査項目について、すべての項目が前向きな評価であった。生徒の発達段階も関係するが、学年が上がるにつれて数値がやや低くなる傾向は否めない。ここにぜひ風穴をあけたいものである。つまり、「生徒の発達段階上、仕方ない」ではなくて中学校3年間の中で確実に生徒が自己有用感の伸びを実感できる教育活動を仕組んでいく必要がある。そのためにも、日常の授業では「わかった」「できた」「伸びた」が実感できる授業づくり、多くの実体験を通して「やればできる」を実感できる場の設定を行っていく必要がある。現状に満足しない学校運営・学校づくりを一層推進する必要性を感じる。特に、義務教育課程の全課程を修了する3年生については、進路実現を控えた重要な時期であり、3年生だからこそ、生徒に自己の伸びを実感させる場の充実が求められる。

◎「生徒の基本的生活習慣の定着」に関して

意識できていない生徒が一部に見受けられる。今後も「あいさつ」「時間を守る」「身なりを整える」「清掃に真面目に取り組む」など社会生活でも要求される大切なことを習得させるため、学校と家庭・地域が協力して、実社会に通用する生徒の育成に今後も取り組んでいく。

◎「教師の授業改善」に関して

教師は、自作の教材を開発したり、ICT機器を活用し、より生徒が意欲的に主体的に取り組めるように工夫しているが、不十分な面も見られる。今後も「わかる授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「生徒の学習意欲を引き出していく授業」をめざし、教師自身の研修と研鑽を深め、教師個人のみならずチーム佐伯城南としての力量向上に努めたい。

◎「いじめのない学校づくり」に関して

教師は日頃からいじめの問題に触れ、「いじめは人間として絶対に許さない」という共通認識をもって指導している。にもかかわらず、インターネットのラインなどで交友関係のトラブルに発展する事例、個人情報取得および拡散と社会一般のモラルに抵触する事例もあがり、教師・生徒本人・保護者を交えて解決の方向へ向かうことがあった。しばしば「いじめの情報をきちんと伝えてほしい」と保護者からの問いあわせがあるが、決して放置しているわけではなく、当事者に指導していることが、関係者に伝えきれていないことがあるもの事実である。今後も、保護者や関係機関・専門家との連携を密にして、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に全力を傾け、いじめのない学校・学級づくりを推進していく。

◎「交通ルールを守っての登下校」に関して

本校は、100%近くの生徒が自転車通学をしている。(自転車通学申請書・許可証) 地域の方から交通事故を危ぶむ声が多く寄せられた。その場の情報であれば、担当職員を現場に向かわせ情報収集に努め、事実を掌握し事後指導に活用した。今後も、PTAと協力しながら登校指導を行いたい。尚、下校指導については、日常継続的に取り組めなかった。これからも、交通ルール遵守や交通マナー向上の意識を高めるために全校集会等を通して取り組む。4月は新入学生(新1年生)も自転車通学になるので、新1年生については徹底的な交通安全教育を行いたい。

◎「地域の人材や環境を生かした教育活動」に関して

保護者からは、職場体験学習など地域の力を取り入れた教育活動に関して高い評価を得た。効果的な地域の人材活用を今後も継続していく必要がある。また、地域の行事への学校として組織的な参加は、あまりないが、自主的に校区や城山の清掃活動に参加したことは評価できる。今年度は、佐伯市のまちおこしの一貫であるB1グランプリには組織的に100名近くの生徒が参加できた。

《まとめ》

今年度も、学校評価アンケートに回答していただきありがとうございました。多くのご指摘通り、見直さねばならない点も多々あると思われまます。ご指摘として寄せられた声をさらに検討していきます。生徒・教職員・保護者の立場で、現在の佐伯城南中学校の取組を評価しました。のべ1000人を超える人が評価活動に参加し、貴重な資料を得ることができました。多くの方が、佐伯城南中学校という場所にそれぞれの思いをもって関わっています。全員が満足するということは大変困難なことです。しかし、この学校評価が単なる評価活動におわることなく、現状を知り、具体的な改善点を見つけ、手と知恵を加えることにより、よりよい学校にするために検討していくことはとても意義あることと考えます。

生徒の健やかな成長を図りながら、保護者そして地域の皆様の一層の理解と支援・協力が得られるように更なる努力をしていきます。今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りたいと存じます。お忙しい中での評価アンケート記入のお願いに、快くご回答をいただき誠にありがとうございました。